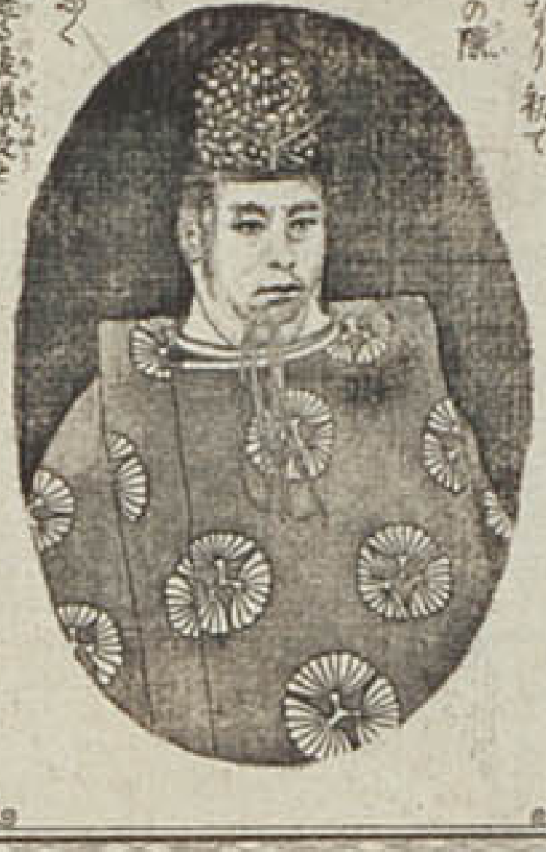
明治名譽鑑　第一号

明治十三年五月十八日御届

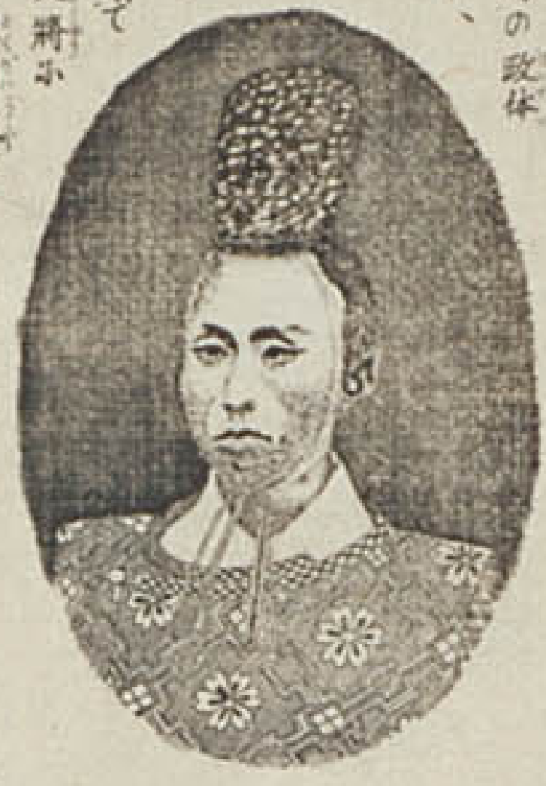
有栖川熾仁二品親王（左大臣陸軍大將大勳位）

△明治十三年三月左大臣に任せらる



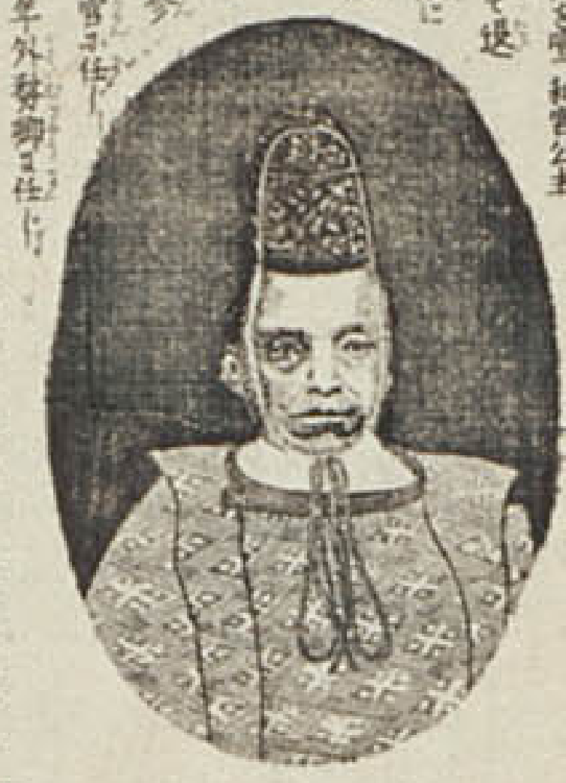
一品幟仁親王の子なり、初て大宰帥となる、維新の際東征大總督に拜せられ節刀を賜り兵を勵し敵徒を討つ、向ふ所前無く叛敵皆平げ、後久留米縣令に任し、程もなく元老院二等議官に遷る、後議長と爲る、明治十年西郷隆盛等西國に暴起す、親王則ち征討大總督を拜し、大軍を率て之を平ぐ、功を以陸軍大將大勳位に叙せらる△

三條實美公（太政大臣兼賞勳局總裁勳一等從一位）



右大臣實萬卿の二子也、夙に皇室の陵替を歎き、文久二年勅を奉じて江戸に到り幕府の政体を更め、後朝議一變し、故有て三條西以下七卿と俱に周防に潛匿す、慶應四年徳川氏大政奉還す、公乃ち副總裁職に任し、尋て關東監察使左近衛大將に拜せられ、江戸に到り徳川氏を處置す、右大臣に遷り累て左大臣に昇る、明治四年太政大臣に拜せられ、且從一位に叙し勳一等を賜ふ

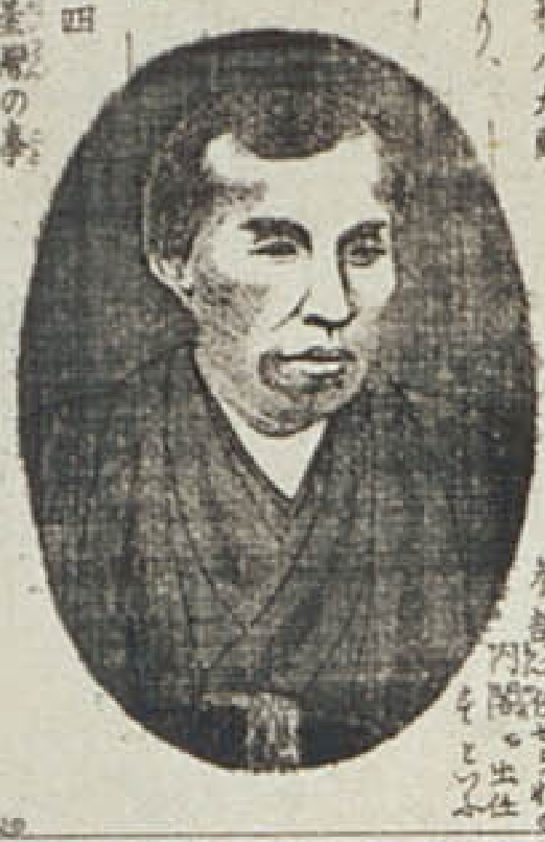
岩倉具視公（右大臣勳一等從一位）



公夙に[illegible]常に國威を振はん事を勉め以て帝室を輔佐す、安政の頃公武共和の說を唱へ和宮公主を徳川氏へ嫁せしむ、後故有て退隱し落髮して友山と稱す、陰に勤王の志士を招き皇威を挽回せん事を謀る、既にして幕府政權を奉還す、萬機親裁に歸す、因て公を起して大政參與となす、明治元年議定官に任し、二年大納言に拜す、四年外務卿に任し、尋て右大臣に轉し、特命全權大使と爲り歐米各國に渡海し、各國の皇帝に見へ、九年從一位に叙す、十一年勳一等を賜ふ

大隈重信卿（參議勳一等正四位）

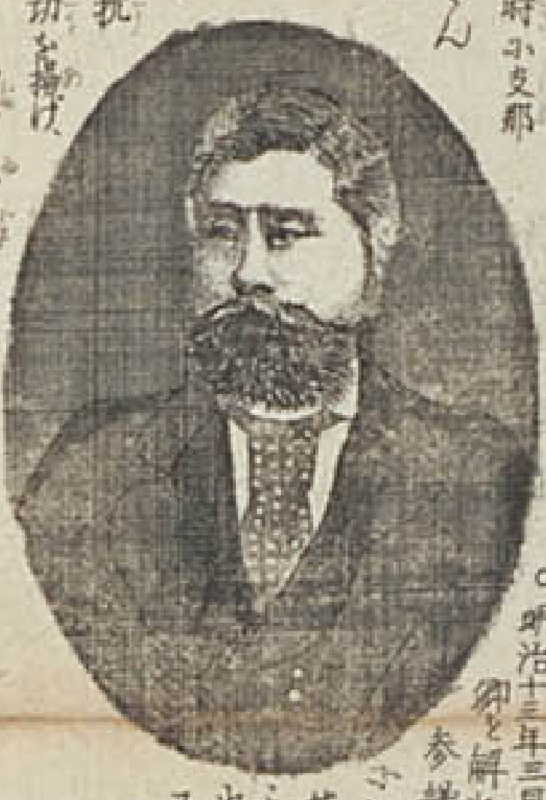
○三月大藏卿を免ぜられ更に參議に任せられ内閣に出仕[illegible]



卿ハ肥前に生る、通稱八太郎、旧鍋嶋氏の家臣なり、專ら經濟の學に達し、殖る國を富せしむるの才に長ず、明治元年參與と爲り、尋て參議に任ぜられ、七年大藏卿に拜す、正四位に叙せらる、八年臺灣の事起るに際し蕃地事務局長を兼任し、輜重に盡力し、既に平定の功を奏す、勳一等を賜ふ、時に明治十三年○

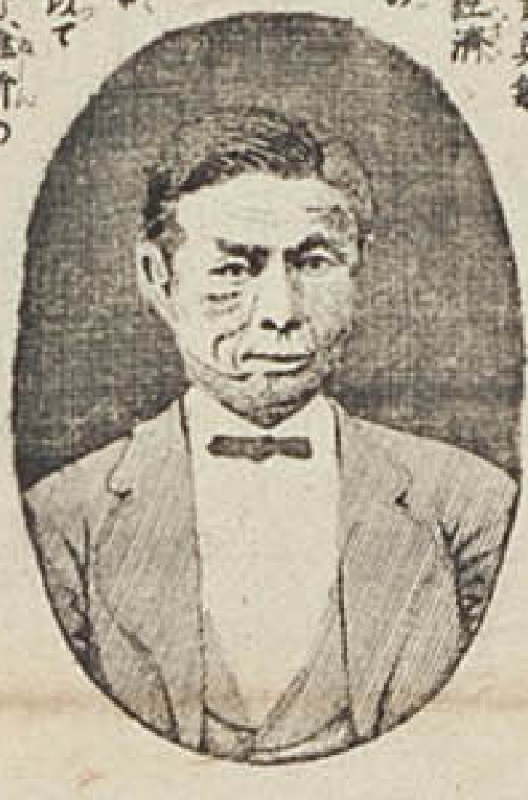
西郷從道卿（參議勳一等從四位）

○明治十三年三月卿を解れ參議に任せらる



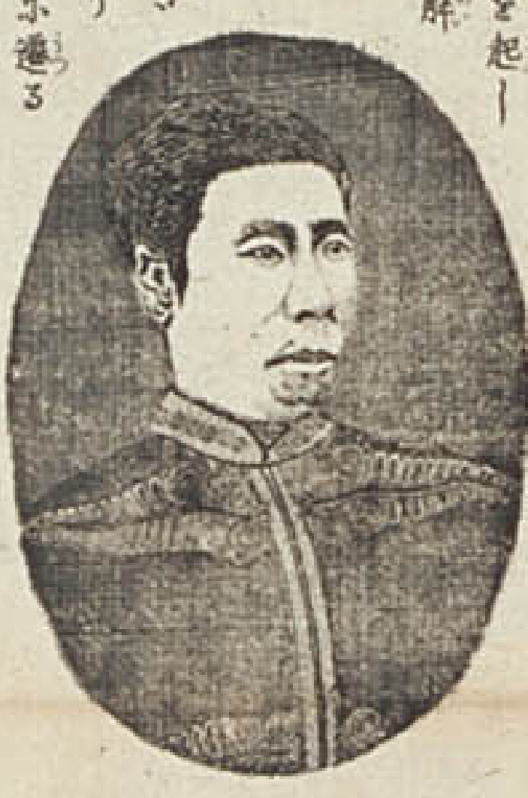
鹿兒島の人、隆盛の弟也、文武兩才有り、曾て勅を奉して台灣を討、大に皇軍を進む、時に支那人台灣の我屬國たらん事を恐れ虛威を以て逆んとす、公泰然動ず、清國全州を蹂るも破らんとす、是に於て支那人大に恐れ相抗する事能はず、遂に其功を揚げ、從四位に叙し、武勇を萬國に顯かす、陸軍中將に拜す、明治十一年五月參議兼文部卿に任す、幾もなく陸軍卿に轉任す、且勳一等を賜ふ。

井上馨卿（參議兼工部卿從四位）



周防山口の人也、天資英敏、能學多才にして最も經濟學に達す、維新の初め山縣有朋大村藏六等の諸卿と俱に正議を起し、屢幕府の私政を辨駁し、遂に幕軍の多兵に少兵を以て抗し、幕軍を退かしむ、維新の後大藏大輔に拜し從四位に叙す、後事故有て職を辭す、幾もなく特命全權公使に拜す、後參議兼工部卿に任ぜらる

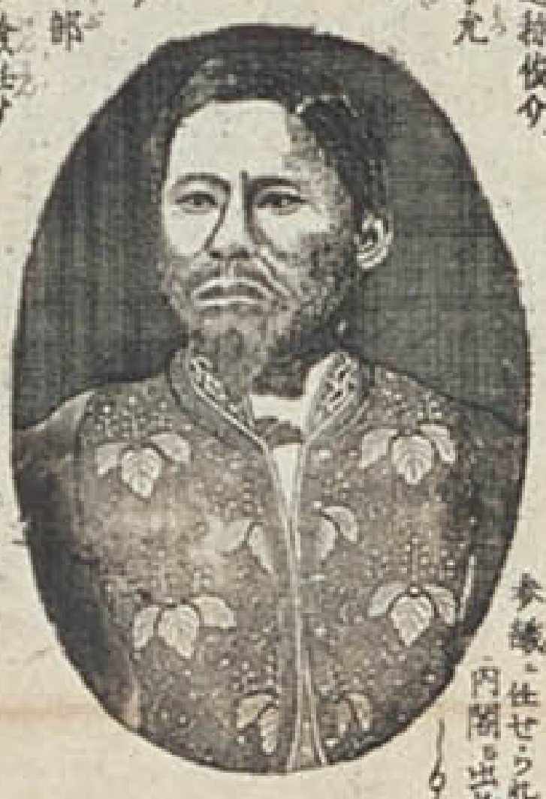
山縣有朋卿（參議兼參謀本部長勳一等正四位）



長州の人也、通稱狂介、天資强勇武道最に勝れ、維新の際井上馨等諸君と俱に正義を起し、屢幕府の暴政を辨解し、終に義旗を本國に揚げ、少兵を以て大敵に向へ幾に幕軍を追ひ退く、其勳き最も廣大なり、夫より參謀と爲て後參議に遷る、陸軍省を置る際卿に拜す、正四位に叙す、近衛都督を兼る、西國暴起の時參軍となり、平定の後ち勳一等を賜ふ、明治十一年一月參謀本部長に任を遷せらる

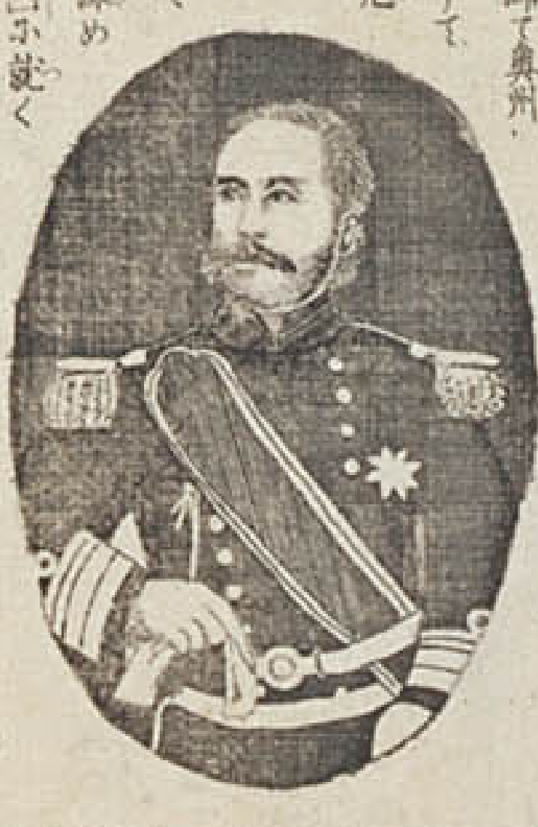
伊藤博文卿（參議勳一等正四位）

△明治十三年三月内務卿を解れ參議に任せられ内閣に出仕せらる



長州萩の人なり、通稱俊介、慶應の年中木戸孝允等と同藩士を挽回し、以て毛利氏勤王の素願を成す、明治元年撰せられて兵庫縣令に、後ち參議に遷る、工部省設立に及び卿に兼任す、正四位に叙す、尤年賞勳事務局長官を兼る、十一年内務卿に轉任す、勳一等を賜ふ△

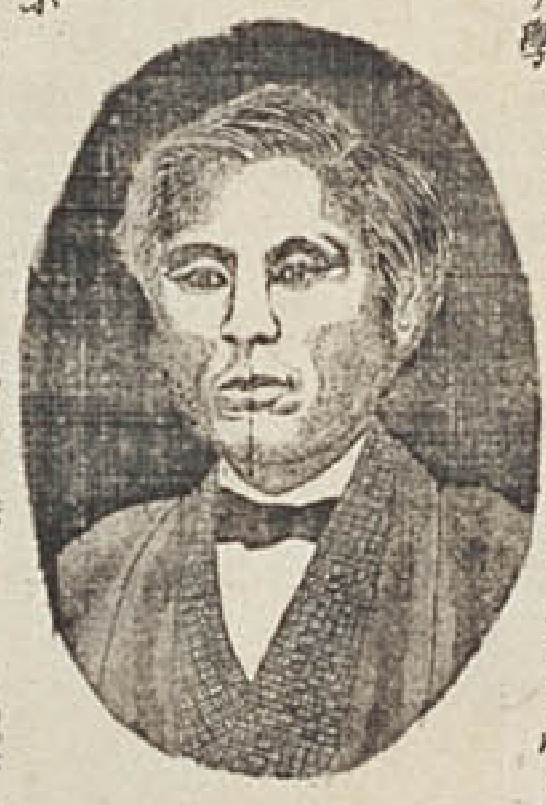
榎本武揚卿（海軍卿勳二等從四位）



幕府の臣也、駿州に籍を遷す、通名釜二郎、維新の時に松平太郎等と軍艦クワンヨウ丸を師て奥州に入り、函館に屯集して屢々官兵と抗戰す、危急の際萬國海律全書を參謀中山良三に渡し切腹せんとする、大塚及び田島等の諫め止むるにより終に囚に就く、後ち從四位に叙し海軍中將に任す、特命全權公使に拜せられ永く魯國に滯在し、明治十二年二月歸朝せられたり、亦明治十三年三月海軍卿に昇進し玉ふ

山尾庸三卿（工部卿從四位）

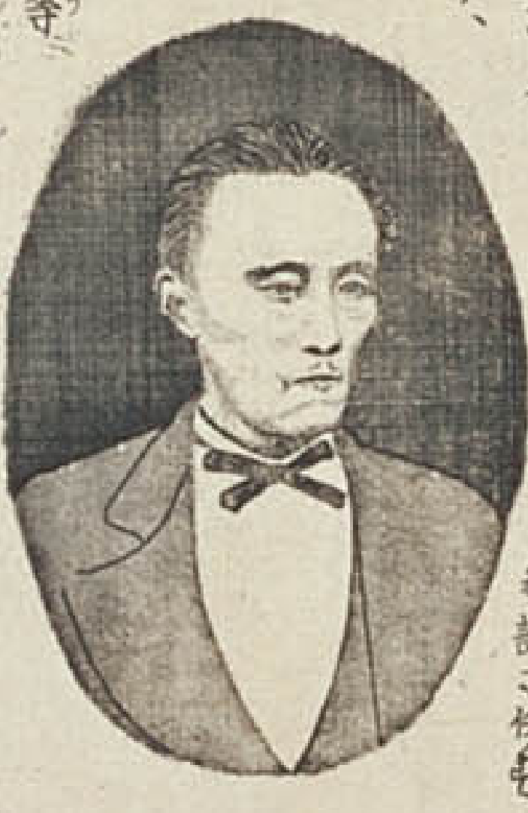
△時に明治十三年三月工部卿に任せらる



周防山口の人なり、學才完備衆に勝れ、宏度萬機に通し、能く世上に達す、嘗て英吉利斯に渡海し實地研究頗る外事に熟達す、其良法を擇出し以て皇國の闕典を助け、明治以來諸官を歷て從四位に叙し、工部大輔に拜す△

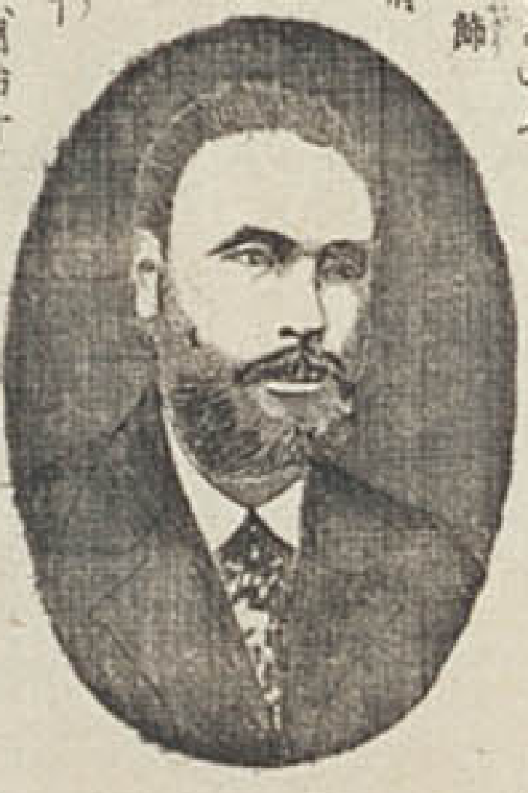
河村純義卿（參議勳一等從四位）

△明治十三年三月卿を免ぜられ更に參議に任ぜ



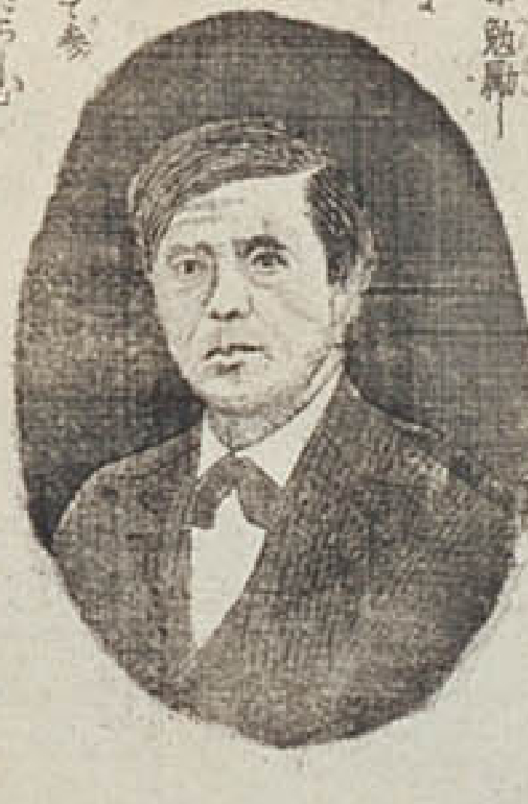
鹿兒嶋の人なり、天性英勇にして文武に通ず、維新の際百方盡力し共功を全す、海軍中將兼海軍大輔に任す、明治十年西郷隆盛等西陲に暴乱す、公參謀と爲り遂に之を平ぐ、後參議兼海軍卿に遷る、勳一等を賜ふ△

黒田清隆卿（參議兼開拓長官勳一等正四位）



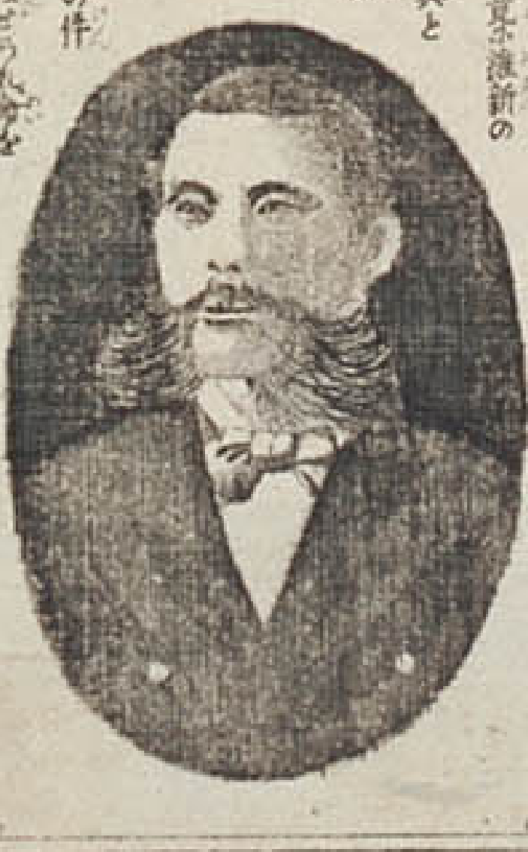
鹿兒島の人、通稱良助といふ、勇豪にして敢て拙ひ飾るを好まず、夙に幕府の專制私多きを憤し、大久保西郷の諸君と協議し、終に復古の政業を起さ、維新の後參議に任す、又陸軍中將兼開拓長官に拜す、明治十年西南の暴乱の際參軍となり、諸軍と共に進擊して西郷桐野等を城山に討、平定の功を奏して遷る、勳一等を賜ふ

木戸孝允卿（故　内閣顧問贈正二位）



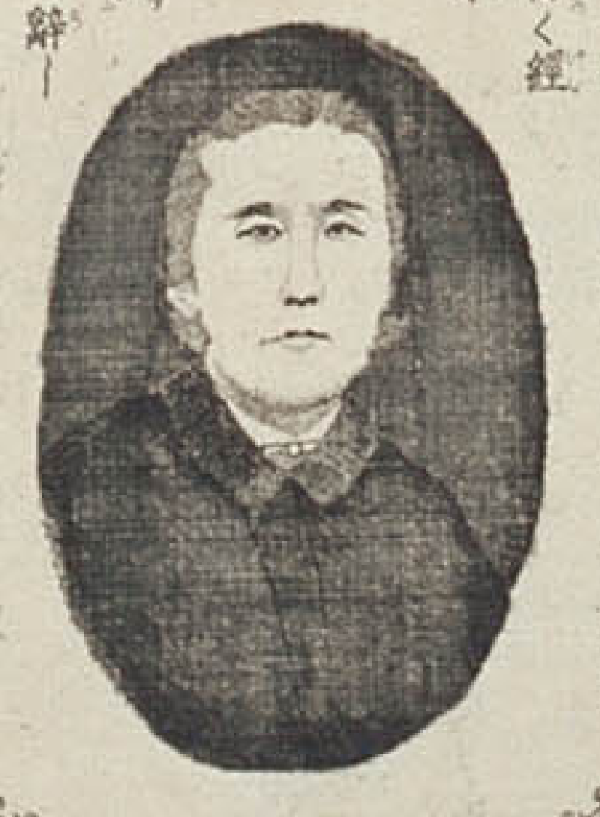
長門の人、本性和田、幼にして桂氏に養はる、桂小五郎と云、後に木戸準一郎と更む、資性度學事に勉勵し大に進む、戊辰の變に際し頗る國事に盡力し、後諸官を經て從三位參議に任ず、病を以て屢官を辭すと雖も不許、明治九年固く請て參議を罷め僅に内閣顧問たらしむ、十年二月鳳輦西京に幸す、公之に從ふ、既にして[illegible]天皇其家に臨み[illegible]、勳一等に叙し、旭日大綬章を親授す、其翌日薨ず、年四十四、勅して正二位を贈る

大久保利通卿（故　參議兼内務卿贈右大臣正二位）



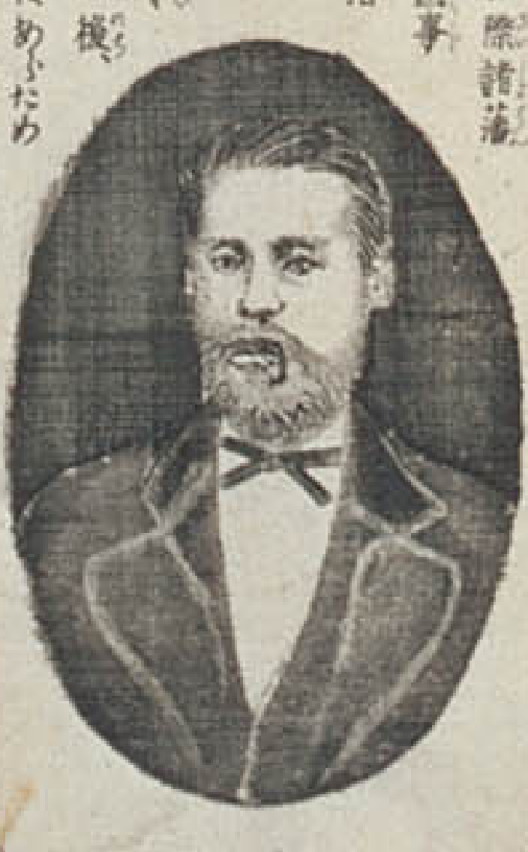
薩州の人、通稱市藏と云、智謀深く政事に習練し、最も經濟に長ず、岩倉公を補佐し能く政府改革の大計を爲す、勤勉勵精を盡くし維新の基礎を固む、明治元年大政參與となり、尋て參議に任す、内務省を置る時乃ち卿を兼任し、從三位に叙せらる、内國の事務を以て己が任となし勲勞多し、台灣の件起るに及んで特命全權大使に任せられ、[illegible]以て和議を結び、大に國威を海外に輝せり、明治十一年五月十四日太政官へ出勤の際赤坂紀尾井坂に於て殺害せらる、年[illegible]、勅して右大臣正二位を贈る

板垣退助卿（正四位）



土佐の人、初め乾猪之助といひ、後氏を板垣と改む、幼にして而豪邁、人其剛勁に驚く、經歷して屢々に功有、明治三年十月藩の大參事となる、同年閏十月參議に遷る、同十二月正四位に叙、六年官を辭し、八年三月復た參議に任す、幾もなく職を辭し土佐に歸り、今立志社の長となり專ら後進を誘といふ

楠本正隆卿（議官從五位）



肥前大村の人なり、天資英邁、言行柔和にして正實をなす、且て人に倚らず、維新の際諸藩豪傑の士と共に國事に盡力し、遂に明治の政業を輔佐す、維新以降諸官を歷任し、後新潟縣令に任す、該地に赴の機、專ら國民の弊病を救あらため、學業を進め國產を蕃盛せんが爲め良法を教導す、其治蹟諸縣の上にあり、任を去時人民別を惜む、轉して東京府知事に任し從五位に叙せらる

編輯兼出版人　東京府下　神田區　鍋町二番地　同府平民

清水嘉兵衛　版

明治名誉鑑第一号　ヲ6-3145-23
早稲田大学図書館蔵／Waseda University Library